

## 米軍タンク投棄

# 住民軽視を繰り返すな

住民や民家に被害はなかつたが、一つ間違えば大惨事になりかねなかつた。米軍は地元の不安や懸念を深刻に受け止め、原因究明と再発防止策の徹底に努めねばならない。日本政府にも、その実行を厳しく迫る重い責任がある。

青森県三沢市にある米軍三沢基地所属のF-16戦闘機が飛行中、トウフルと尾翼われ、青森空港への緊急着陸に備えて機体を軽くしようと、燃料タンク2個を投棄した。うち1個が、周辺に民家もある同県深浦町役場近くでみつかつた。部品が散乱し、漏れ出了燃料で道路は油まみれになつた。2個目は同町内の山中で確認された。

米軍は当初、人が住んでいない地域に投棄したと発表した。地上の安全をどのように確認したのか、詳しい経緯の説明が求められる。

罪に訪れた三沢基地の副司令官らに「可燃物で、相当な重量の漁船が巻き込まれていれば、誠に遺憾」と伝えた。米軍はF-16の飛行訓練を開けたが、安全の確認についで、納得のいく丁寧な説明抜きでは、懸念は拭えまい。

地元への連報連れが繰り返されたことも見過せない。今回、深浦町や青森県に防衛省経由で正式な連絡が入つたのは、投棄から4時間近くたつた後だ。

た。沖縄県の米軍普天間飛行場所属のオスプレイが先月、住宅地に水筒を落とした時も、米軍は直後に把握していたのに、防衛省が問い合わせるまで日本側に報告していなかつた。

住民に不安を与える、危険な低空飛行訓練も各地で実施されている。全国知事会は、訓練の時期やルートなどの情報を事前に提供するよう求めているが、これらも実現されていない。

在日米軍で事件・事故が起きた際、東京と現地、それだけで迅速な通報を取り決めた日米合意の形骸化は許されない。

三沢基地では3年前にも、離陸直後にエンジン付近から出火

したF-16が、燃料タンク2個を小川原湖に投棄した。シジミ漁の漁船が巻き込まれていれば、大惨事になりかねなかつた。

米軍機をめぐるトラブルは青森県だけの話ではない。とりわけ、米軍基地が集中する沖縄県では、部品の落下や墜落・不時着などが毎年のように繰り返されている。そのたびに米軍は「原因究明と再発防止の徹底」を表明するが、事態は一向に改善されていない。